

第1期 北海道南西沖地震被災地区の概要

1-1. 震源地周辺の自然環境

1. 奥尻町の地形

01. 島全体が低平な丘陵性山地で、極めて貧弱な海岸平地を形成している。

奥尻島は図に示すとおり、島の中央西側にある標高 584.5m の神威山が最高点で、島全体が低平な丘陵山地となっている。また、その大半は台地から急激に海に向け落ち込んでおり、極めて貧弱な海岸平地を形成している。集落はこの貧弱な海岸平地の台地から流れ込む川の河口に点在している。島で唯一の道道である奥尻島線はこれらの集落間を結んでおり、北の稲穂地区から南の青苗地区までの東海岸沿いに、青苗地区から幌内地区までは西海岸沿いに、また、幌内地区からは北に集落が無く海岸線が急峻であるため、山間部を通り稲穂地区に続いている。[『平成5(1993年)北海道南西沖地震 東京都調査班報告書』東京都(1994/1), p.56]

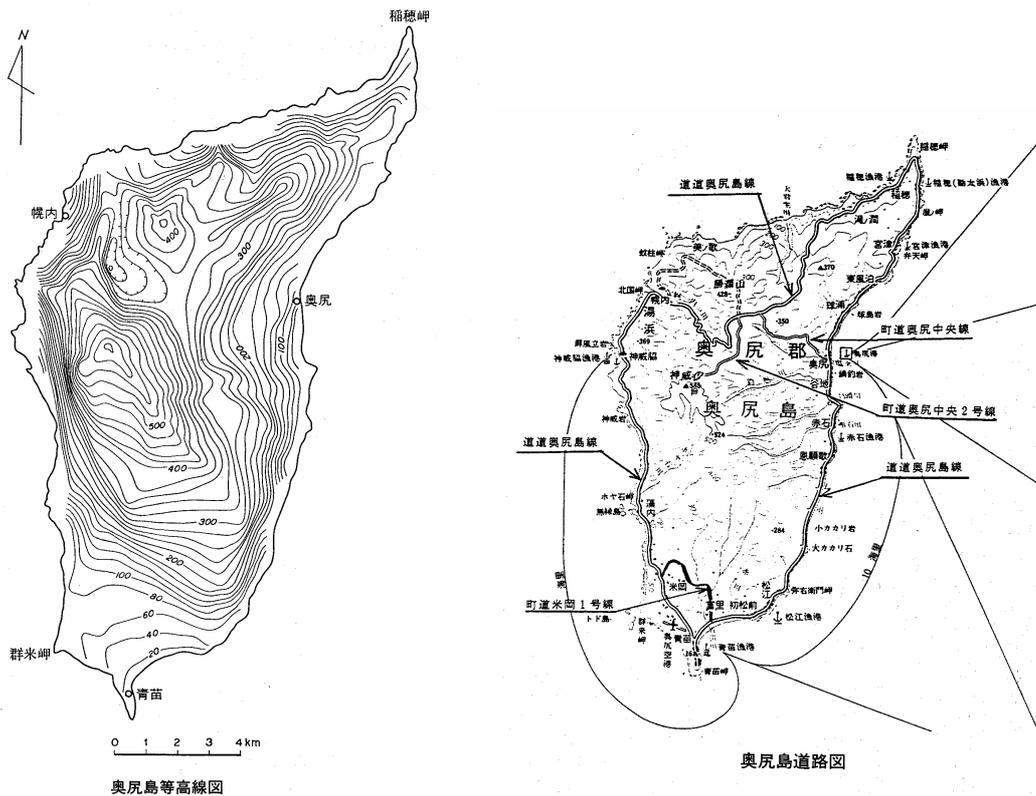


図 奥尻島の等高線図と道路図

(出典：『平成5(1993年)北海道南西沖地震 東京都調査班報告書』東京都(1994/1), p.60-61)

2. 檜山支庁管内

01. 北海道の南西部に位置し、東部に隣接した大沼国定公園（渡島支庁管内）と合わせて、国内有数の観光地。

檜山支庁管内は、北海道南西部に位置し、今回被害の大きかった奥尻島をはじめ管内に10の町を持つ。東部に隣接している渡島支庁管内にある大沼国定公園と合わせ、風光明媚な自然環境を備えた、国内有数の観光地となっている。[『平成5（1993年）北海道南西沖地震 東京都調査班報告書』東京都(1994/1), p.19]

02. 北海道でも比較的温暖な地域で、平成4年の江差の平均気温は10.1、降水量は月平均107.3mm。

管内は、北海道でも比較的温暖な地域であり、江差の平成4年の平均気温は、10.1となっている。また、降水量も同年で、月平均107.3mmであり、函館の102.0mmとほぼ近い数値となっている。[『平成5（1993年）北海道南西沖地震 東京都調査班報告書』東京都(1994/1), p.19]